

Sustainability Assurance Insights

近年、サステナビリティ情報の重要性の高まりとともに、その情報の信頼性確保に対するニーズも高まってきています。こうした状況を受けて、国内外におけるサステナビリティ報告の保証に関する動きが活発になってきています。

サステナビリティ報告の保証は、保証業務の一つです。そこでまずは、保証業務の基礎知識を紹介します。

vol.1

保証業務とは？

公認会計士が行う業務には、監査以外の保証業務があります。

財務諸表のレビュー業務 (Review engagement) は、業務実施者が実施した手続に基づいて、財務諸表が、全ての重要な点において、適用される財務報告の枠組みに準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められなかったかどうかに関し、結論を表明することにあります。

監査及びレビュー業務が過去財務情報を対象としているのに対し、監査及びレビュー業務以外の保証業務は、以下を対象としています。

- ・ 過去財務情報のうち、監査及びレビュー業務の対象とならないもの (財務諸表、個別財務表、財務諸表項目以外)
- ・ 将来財務情報
- ・ プロセス・行為 等

★「保証 (assurance)」とは主題情報に信頼性を付与することであり、
法律上の保証 (guarantee) や保険 (insurance) とは意味の異なるものとなります。

1

保証業務とは

保証業務とは、適合する**規準**^①によって**主題**^②を測定又は評価した結果である**主題情報**^③に信頼性を付与することを目的として、**業務実施者**^④が、十分かつ適切な証拠を入手し、**想定利用者**（主題に責任を負う者を除く。）^⑤に対して、**主題情報**^⑥に関する結論を報告する業務をいいます。

(イメージ)



2

主題情報

主題情報とは、主題に責任を負う者が一定の規準によって当該主題を評価又は測定した結果を表明する情報をいいます。

例えば、財務諸表監査の場合は次のようになります。

主 題 : 事業体の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況
 規 準 : 財務報告のフレームワーク
 主題情報: 財務諸表

3 合理的な保証と限定的保証

保証業務は、保証業務リスクの程度により、「合理的保証業務」と「限定的保証業務」に分類されます。合理的保証業務では、業務実施者が、当該業務が成立する状況のもとで、積極的形式による結論の報告を行う基礎として合理的な低い水準に保証業務リスクを抑えます。これに対して、限定的保証業務では、合理的保証業務の場合よりは高い水準ではあるが、消極的形式による結論の報告を行う基礎としては受け入れることができる程度に保証業務リスクの水準を抑えます。

	合理的保証業務	限定的保証業務
保証業務リスクの低減	結論を表明する基礎として、業務実施者が保証業務リスクを個々の業務の状況において受入可能な低い水準に抑える。	結論を表明する基礎として、業務実施者が保証業務リスクを個々の業務の状況において受入可能な水準に抑えるが、保証業務リスクの水準は合理的保証業務に比べてより高く設定される。 ↓ 限定的保証業務で実施される手続の種類、実施時期及び範囲は、合理的保証業務で必要とされるよりも限定されたものになる。
保証業務の結論	積極的形式 …適合する規準によって主題を測定又は評価した結果に対する業務実施者の意見を伝達する形式で表明する。	消極的形式 …実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報に重要な虚偽表示があると業務実施者に信じさせる事項が認められたかどうかを記載する形式で表明する。

JICPA オンラインセミナー
「ゼロからわかる保証業務」
(アーカイブ配信中)



(執筆者) 日本公認会計士協会 監査グループ事務局
(発行日) 2023年4月28日



業務本部 監査グループ

E-mail: kansa@sec.jicpa.or.jp

URL: <https://jicpa.or.jp/>

 [JICPA 監査・関連情報 \(@jicpa_audit\)](https://twitter.com/jicpa_audit)

